

# むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査

木村 大・富永 武治

## 発表誌名

昭和55年度むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査報告書

## 抄 録

むつ小川原開発計画による火力発電所の設置に先立ち、六ヶ所村前面海域における魚類の分布、回遊などを把握し、排水による影響防止対策の基礎資料を収集することを目的とする。

### 1. 刺網漁獲試験

六ヶ所村出戸沖の距岸0.5，1及び2 kmの海域において，6，9及び10月に漁獲試験を依頼した。多獲魚種はヒラツメガニで，沿岸に多く分布する傾向が見られた。マサバはこれとは逆に，沖合で分布量が多い。

三沢市天ヶ森沖の距岸0.5，1及び2 kmの海域において，6～8月に漁獲試験を依頼した。多獲魚種はヒラメ，イシガレイであり，ヒラメは沿岸に多く分布する傾向が見られ，イシガレイは前の月ほど漁獲量が多くない。

### 2. 漁業種別操業状況

漁業者からの聞きとりによると，六ヶ所村沖の海面では，協同漁業権内で6漁業種類が営まれていたが，これは昨年に比べ2種類少なく，また操業された漁業も着業隻数が減少していた。

三沢市沖では15漁業種類が操業され，これらの漁場はイカー本釣を除き，全て協同漁業権内であり，隻数は昨年に比べ全体的に増加している。

### 3. 漁業種別漁獲量

漁協統計資料によると，六ヶ所村沖では小型定置網の漁獲量が全体の67%と多く，その内の71%がサケである。またサケは刺網でも多獲され，総漁獲量の約半数を占めており重要魚種となっている。

三沢市沖ではヒラメ，カレイを漁獲対象とした刺網が全体の27%を占め，コタマガイを対象とした桁網（25%），イワシを対象とした地曳網（18%）の漁獲量が多い。